

第6回ESS・OB 会総会催される

1999年9月23日(木)好天の青山渋谷キャンパスにて第6回ESS・OB 会総会が開催されました。今回の総会は1980年に第1回開催以来19年を経て初めて青山学院のキャンパスで行う事に致しました。当日は青山学院大学同窓祭が催されており、模擬店やバンド、コンサート、講演など様々なイベントがあり、我々OB にとって懐かしいキャンパスの中で福引きを始め楽しめる事が沢山ありました。

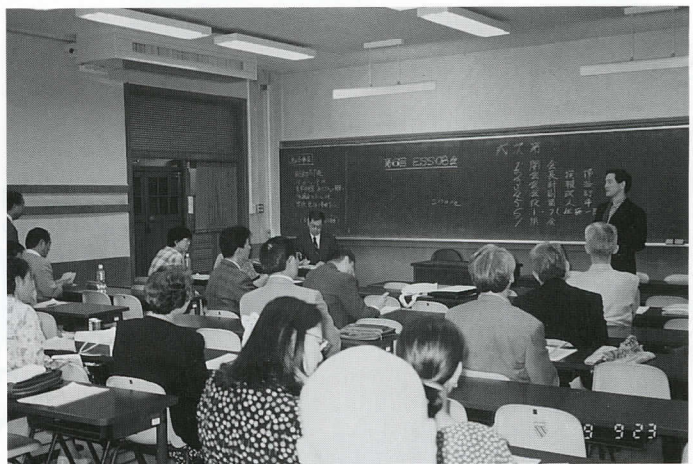
さて OB会総会は学生時代にデイリー活動やチャペルタイム等で利用した方々もおられる2号館の228号室で開催致しました。午後2時スタートの総会は橋本光郎会長の挨拶の後、小澤剛会計局長から会計報告があり、さらに会則の改訂を行い承認されました。なお今回は橋本会長が第1回から会長を続けて頂いておりましたが、今総会をもって交代したいとの申し出もあり昭和43年卒業の芦原貞雄さんに会長を引き受けて頂くことになりました。会長が一回り若返ったという事になります。

これに伴って役員も一部変更する事になりましたので、これも総会にて承認されました。(役員人事の変更参照。)

役員人事の後、昭和32年卒業の佐藤一郎さんによるトークがあり、日本語でわかりやすくお話を頂いておりましたら、英語でのトークをOBから希望され、これに対して直ちに佐藤さんから英語でのトークになり、滑らかに会場ではトーカーとリスナー一体となって時間一杯までお話を頂きさらに続けて頂きたい気持ちでありました。

このようにして2時から3時までESS・OB会総会は終了致しました。

今まではこの後パーティを続けて行っていましたが、今回は総会で全体の集会はお開きとし、この後は青山同窓祭でのキャンパス内をみたり同期や年次の比較的近い人たちが集まって青学会館やシャトーなど近くで杯を上げて昔を語り近況を話し合ったりされておりました。



ESS・OB会総会の開催日は毎年9月23日

今回の総会でOB会は毎年9月23日(秋分の日)に開催します。当日は青山学院大学の同窓祭が行われるので、キャンパスが開放されOB会として教室を利用する事が出来ます。総会終了後OBメンバーは是非懇親会を企画して下さい。

なお2000年は9月23日(土)秋分の日にESS・OB会を開催予定です。

(近くにあるビアレストラン「うすけぼー」は祝日のため本来はお休みですが、人数がまとまれば営業してよいと言っています。当日は青山のいろいろなクラブのOB会があるので周辺の店は結構一杯のようです。「うすけぼー」は200人程度は入れますのでESSで押さえてあります。クラス会などにご利用下さい。参考までにTEL03-3486-9200です。)

会則改訂

- 1, OB会活動で親睦会の開催は個人で企画願ひ、全体のパーティ等は原則として行わない。
2. 役員のうち、事務局、会計局は各々事務長、会計の1名とし、卒業年度毎の幹事は廃止し幹事会も廃止する。

役員人事の変更

- 1, 新しい役員の方々
 - ・会長 芦原 貞雄 (昭和43年卒業)
 - ・副会長 人見 泰二 (昭和34年卒業)
 - ・々 長谷川 寿美子 (昭和34年卒業)
 - ・事務長 藤田 宏一 (昭和41年卒業)
 - ・会計 小澤 剛 (昭和39年卒業)
 - ・会計監事 若林 慎司 (昭和58年卒業)

私の異文化体験

マクドナルドハウス



昭和 47 年卒 秋元都代

私たちは主人の仕事の関係で、平成 4 年 9 月から平成 10 年 8 月まで満 6 年間でアメリカ・テネシー州マクミンビル市で過ごしました。緑豊かな大地、素朴で親しみやすい田舎の人々と共に、ゆったりとした時間の流れの中で楽しく過ごすことができましたが、その中で我が家にとっての重大事だった事について、お話します。

赴任当時、高校 2 年生の息子たち（双子）は、英語での授業に苦勞し、なんとか高校は卒業したものの大学に行くには英語力不足で、1 年間英語専門学校、やっとカレッジに入れ安心し、20 歳を目の前にした時、次男の方が脳内出血で倒れました。

救急車で運ばれた田舎の病院の初期診断には不満がありましたが、ひとたび、緊急度が必要と分かった途端、専門の大病院からのヘリコプター要因の応急処置、病院到着時の専門医チームのスタンバイとしっかりとしたシステムの良さに感心しました。

幸い一命を救われ、右半身の麻痺は残りましたが、元気で一緒に帰国できたことを嬉しく思います。

この病院は、我が家から 100km 離れたチャタヌーガ市にあり、取りあえず駆けつけたので、夜になり宿泊のことも何も気が回らずに動転していた時、マクドナルド・ハウスの事を病院のカウンセラーから紹介されました。

皆さんの良く知っているあのハンバーガーのマクドナルドが、重病の子供患者を持つ家族をサポートする為のボランティア宿泊施設で、病院の目の前にあります。

一部屋家族 4 人まで 1 日\$10 で泊まれ、私の泊まった施設はボランティアの人々が毎日夕食を作りにきてくれるので、親は安心して子供の病室へ通えます。自分ひとりが不幸だと思っている私に、回りの皆さんが“今日は息子さんどうだった？”と、お互いに励まし合いながら声を掛けてくれるのです。同宿の人たちは子供が ICU に入っていて、首にロープが絡まり植物状態の子、全身やけどで皮膚移植する子、交通事故で内臓破裂と頭部損傷の子など、明日も知れない子を持つ親たちが、まず前向きに子の状況を見詰め明るく元気にならんといけない事を学びました。

アメリカらしい工夫は、強制ではありませんが部屋毎に役割当番制になっていて、1 号室は食器洗い機、2 号室は洗濯室掃除など決められており、最初の頃は何でこんな時に面倒な事かと思っておりましたが、労働による気持ちの切り替え、また気持ちの余裕ができた時行方など、親のストレス解消に役立つようになっているのです。

アメリカ人の明るさに助けられながら、困難から立ち上がる術を得た事は私の財産です。

私は常々日本にもこういう施設があれば良いと願っていましたが、このマクドナルド・ハウスが 2001 年に第 1 号が建ちます。5000 人も亡くなった阪神大震災を契機にボランティア意識が高まり、日本マクドナルド社長の藤田さんを中心に、すでにハウス建設に取り組んでいると聞きました。こういう事業の運営は大勢のボランティアによって支えられています。皆様も既に色々な形でボランティアにたずさわっているとは思いますが、今回 OB 会を通じてこの施設の事を知ってもらい、少しでも身近な事と興味を持って頂ければ幸いです。

あの「猫の遺言状」がミュージカルに!!

前（平成 11 年）号でご紹介した相沢紘子さん（昭和 43 年卒）の小説がミュージカルになりました。



「ゴールド物語」

社会性を持たない勝手な動物と言われている猫たちの、人間を超えるようなその家族愛、固い結束、短く激しい野良猫たちの生と死を通じて、人間と関わりながら真剣に生き、真剣に愛を貰った猫たちの心打たれる物語。（ヒロコ ムトーのホームページより）

原作・脚色・作詞： ヒロコ・ムトー

演出： 木島 恭

出演： 稲垣 美穂子、劇団目覚時計 他

音楽： 「マリオネット」による生演奏もあり

製作： 青少年の心を育てる会

ボルトガル・ギター：湯浅 隆

マンドリン：吉田剛士

料金(赤坂の場合)： 全席指定 S 席／6,500 円 S 席／6,000 円、

A 席／4,500 円、 B 席／4,000 円

公演予定：

12 月 3 日 赤坂 ACT シアター (東京)

4 日 赤坂 ACT シアター (東京)

7 日 アステールプラザ (広島)

9 日 防府市公会堂 (山口)

10 日 宇部市渡辺翁記念開館 (山口)

お問い合わせ・前売り： ゴールド事務局 tel 0120-31-2918

前売り：チケットぴあ tel 03-5237-9988